

### 1 自己評価及び外部評価結果 (1ユニット)

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101202		
法人名	株式会社 アイデイ・インターナショナル		
事業所名	グループホーム 東町		
所在地	岐阜県大垣市東町4丁目44 - 1		
自己評価作成日	平成21年10月1日	評価結果市町村受理日	平成22年1月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172101202&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172101202&amp;SCD=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人のたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成21年11月17日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは平屋づくりで日当たりが良く、広々とした中庭では洗濯や布団を干し、外気浴を楽しんでいる。また、花壇には季節の花や果物が生り、リビングに飾ったり、おやつに食べて利用者を楽しませている。日々の生活のなかに食事の準備や洗濯干し・草取り等の役割を持ち、それを継続することで心身の健康を保っている。入浴は一人の職員が一連の行為を行うため、ゆったりのおんびり入っただけのお湯は一人ひとり交換し、感染予防も含めて清潔な環境で利用していただいている。隣接の協力施設と行事や研修会・医療面で協働し合い、生活にメリハリと安全で安心した生活を提供している。介護計画には本人や家族の思いを反映し、個別ケアを大切に取り組んでいる。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の急な外出希望に対応できる体制を整え、いつも、隣接の施設の畑へ散歩したり、中庭の花壇の草むしり、四季の行楽など外出している。管理者、職員は生活歴や環境を把握し、利用者がありのままの自分でいられるよう支援している。職員は常に笑顔を保ち、本人のペースを守り、見守り、一緒に行動している。また、入浴時の準備のために準備表を作成したり、各自の洗濯物入れのネットの管理など利用者の能力を引き出し、今まで暮らしてきた生活が継続できるよう工夫をしている。

#### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての理念「地域での役割を持ち、共に生活したい」を入れ、自治会や学校の行事に積極的に参加している。パンフレットや重要事項説明書にも記載し、利用者や関係者にも周知している。	朝のミーティングで理念を読み上げ職員に周知している。地域と関わりを大切に、常に笑顔で、ありのままの自分で暮らし続けることができるよう、実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は近隣に散歩に出掛け、近所の人と交流を図っている。年4回、回覧板にてホームでの様子をお知らせしている。地域からのボランティアは意欲的に受け入れている。	自治会の草むしりや缶拾い等クリーン活動への参加、また、小学校の文化祭へ利用者が作成した刺し子や折り紙などを出展している。広報で、ホームの行事を知らせ夏祭り、ボランティアの受け入等で地域と交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度、隣接の協力施設が「認知症対応型サービスの取組事例普及啓発」を行っており、合同で啓発活動を計画している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者状況やサービス内容について話し合っている。時々隣接のグループホームと共同で行い、情報交換も行っている。メンバーは自治会長や市町村関係者等を含んでいる。	自治会長、市の担当職員、家族、他のグループホームの職員等が出席し、ケアの情報、行事予定や家族会、研修、感染症等取り組みを話し合っているが、家族の参加が少ない。	家族が集まる行事の後に会議を開催するなど、多くの家族の参加が得られるよう工夫されることを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やケアマネ会議にて市町村担当者と情報交換をし、困難事例の相談や質問等をしている。	運営推進会議やケアマネ会議で社協職員、他施設のケアマネジャーと交流が有り、困難事例の相談、質問をしている。また、毎月電話で入居状況について報告しているが、市町村に出向くことは少ない。	問題解決のため市担当者との協力は必要となることが多く、日頃より市町村職員との積極的な交流を期待したい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてユニット会議等でリーダーが全職員に周知し、拘束しないケアを心掛けている。やむを得ず行う場合は、その弊害を家族に理解していただき、できるだけ拘束する時間を減らすように働きかけている。	中戸に鈴をつけ事務所から玄関の様子が伺えるようになっており、事務所に職員がいる時は玄関の鍵はかけていない。また、ことばの拘束も含め、規制せず自由に生活できるよう拘束しないケアを心がけている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して全ての職員が理解するように努めている。利用者や家族からの意見には早急に対応し、心身共に安心して生活できる環境づくりに努めている。		

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通して全ての職員が理解するように努めている。制度が必要な利用者は、家族や関係者と話し合いをし、ホームで円滑に過ごせるように支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時は、利用者や家族が安心されるまで十分に説明をしている。改定時には、説明し文書にて承諾を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設け、気軽に意見や苦情を伝えられる環境づくりをしている。苦情相談窓口もホーム以外に2ヶ所設け、重要事項説明書に機関名を明記している。	家族の訪問時に、利用者の日頃の様子を話し、常に意見の言いやすい環境づくりに努めている。体操、足浴、リハビリや食事等に関して意見、希望があり、話し合い反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の運営会議やユニット会議にて意見や提案を言える機会を設け、それに対しては必ず返答し対応している。	ユニット会議を開き、意見や提案を言える機会があり、その意見をリーダー会議、運営会議に取り込んでいる。職員の補充や倉庫の設置など反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれに役割や居室担当を持ち、責任を持ってケア取り組んでいる。労働条件については、その都度、相談にのり対応している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合わせて資格を取ったり、研修を受けている。協力施設と合同で研修発表も行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に近隣のグループホームと訪問し合い交流を図っている。利用者・職員同士が良い刺激を受けながら質の向上に向けて取り組んでる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時に本人の思いを聴き、不安や困っていることを職員間で話し合い検討している。安心してホームで生活できる環境づくりに努め、信頼関係を築いている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや要望を十分に受けとめ、安心してホームを利用し、職員とも信頼関係が築けるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接時にアセスメントを行い、今、必要な支援を優先的にプランに取り入れケアしている。必要であれば、他のサービスも導入している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は喜怒哀楽を共に信頼を築き、お互いに共存し合う関係を保っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の病院受診は家族の役割りとし、日々の様子や心身の変化を共に感じることを大切にしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる関係者を職員は認識し、良い関係が継続できるよう努めている。本人と一緒に写真撮り、思い出としてのアルバムに残している。	家族や知人と喫茶店へ出かけたり、自由に長電話する機会を設けるよう支援している。また、行きつけの店や自宅へ出かけるなど馴染みの人や場所への関係が途切れないように努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の一人ひとりの性質や思いを理解し、円滑な共同生活が送れるよう職員間で検討している。心身の状態に応じて、それぞれに役割を持ち、生きがいを持って生活できる環境作りを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院へ移られても、馴染みの利用者と一緒に訪問し、写真を撮るなどして良い関係を継続している。		
<b>、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当は常に利用者の思いを聴き取り、実現に向けて取り組んでいる。必要事項は申し送りノートに記載し、全職員が把握できるよう努めている。	担当者は、利用者、家族にどんな所へ行きたいか、どんなことが好きだったか聴き希望、意向の把握に努めている。また、若いころの写真、好きなカセット、CD等を持ってきてもらうなど情報を得て、実現できるよう努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時には、本人や家族からこれまでの生活歴や経過をアセスメントし、ケアプランへ反映させている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態に合わせて、それぞれに役割を持ち、日々の暮らしの中で継続して行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの意向をもとに、居室担当を中心にユニット会議で話し合い、介護計画を作成している。	ユニット会議を開き担当者が中心となり、本人や家族からの希望のもと自宅で行っていた事が継続できるよう、介護計画を作成している。また、現状、問題点、状態の変化など話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に日々の様子や健康状態を記録し、全ての職員が把握できるようにしている。それをもとに介護計画の見直しや関係者との情報共有に使用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせて、受診や買い物等の介助を行っている。ホーム外のサービスも必要に応じてケアの中に取り入れている。		

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や学校の行事には積極的に参加し、地域のボランティアの催しと一緒に楽しんでいる。地域包括支援センターやし消防・警察と情報共有を行い、安全な暮らしを提供している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族の意向に合わせている。ホームとして協力医療機関から月2回の回診を受け、利用者の健康管理に努めている。協力施設に歯科設備があり、必要に応じて検診・治療を行っている。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診や往診もある。ホームでは他に月2回協力医の回診があり、毎月情報提供書をもらい確認している。また、隣接の協力施設に歯科があり、必要時、受診が可能である。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態変化や気づきは迅速に看護師に伝え対処している。ホーム看護師が不在の時は、協力施設の看護師と連携を取り、健康管理に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院見舞いを兼ねて病状の経過を聞き、職員間で情報を共有している。スムーズな退院に向けて家族や病院関係者とは常に情報交換している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に向けた説明を行い、緊急時の対応の仕方としてIC用紙を用い対応している。状態の変化に合わせて、その都度、医師や看護師・家族と話し合いを行い、利用者にとって最良のケアを心掛けている。	入居時に終末期について説明を行っている。重度化した利用者について、医師や看護師と話し合い、家族にその都度説明し、家族、利用者の希望に応じてホームでできる限りの対応をしている。職員は、終末期における介護の勉強に取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時・事故発生時のマニュアルを職員全員が周知し、迅速な対応ができるようにしている。応急手当や初期対応の訓練は定期的に講習を受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受けて、夜間想定避難訓練を行っている。地域の方の参加を促し、協力体制が取れるように努めている。災害時は強力施設と連携をとって食料や飲料水などの備蓄も行っている。	利用者と共に夜間想定を含め避難訓練を実施し、緊急連絡網の確認、避難場所の周知を図っている。運営推進会議や広報で地域の人の参加を呼びかけ実施状況等を報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝のミーティングやユニット会議にて接遇、言葉使いについて注意を促し、尊厳と権利を大切にケアに取り組んでいる。	周りの人に聞こえないように排泄誘導し、プライバシーに配慮している。接遇に関して自尊心を傷つけないよう、言葉使いや気付いたことがあれば、職員同士で互いに注意をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室担当が中心になり、本人の思いや希望を聴き実現に向けて取り組んでいる。ホームでのレクレーションや外出の参加も無理強いはせず、本人の意向を大切にしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝や入浴、食事の時間等は本人の体調や要望に合わせて対応をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々で化粧をしたり、装飾品でおしゃれを楽しんでいる。男性は髭剃りを欠かさず身だしなみを整えている。散髪も定期的に行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時の用意を利用者と職員で毎日行っている。また、利用者の誕生日には、その方の好物をメニューとして、皆で味わっている。	利用者と一緒に、好物を買いに行ったり、季節の食材を取り入れ楽しい食卓となっている。配膳、後片付けは利用者と一緒にしている。日曜日には、利用者の希望を聞き一緒におやつを手作りしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みや旬の食材を使ったメニューを職員が交代で作り、管理栄養士に確認してもらっている。定期的にお茶やコーヒー等で水分補給し、管理の必要な方は、専用の記録用紙を用い、水分の摂取に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。協力施設に歯科設備があり、必要に応じて歯石除去や治療を行い、口腔内の清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、排泄の失敗がないように声かけや誘導を行っている。紙パンツやパットの使用も必要最小限に止めている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。落ち着かない動作があれば、早めのトイレ誘導を行っている。日中は布パンツ、夜間はリハビリパンツにするなど排泄の自立にむけた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を多く取り入れ、水分補給の確保にも努めている。毎日の健康体操や散歩で運動への働きかけもしている。便秘時は個々にあった漢方や便秘薬を使用し、体への負担軽減に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週3回の入浴だが、本人の体調や意向に合わせて回数や曜日・時間の調整をしている。手・足浴も必要に応じて行っている。	午前中に入れられない人には午後や日曜日に変更するなど対応している。一人で入浴準備を行えるよう準備表にしている。また、一人ひとり、好きな入浴剤を選び、入浴後は保護クリームを塗り楽しめるよう支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングにはソファが二つあり、テレビを見たり昼寝をしてゆったりと過ごしている。全室個室で鍵が設置しており、ひとりで気兼ねなく過ごせる空間となっている。夜間も施錠して安心して休まれている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用量や用法の変更時は申し送りノートに記載し、全ての職員が理解するように努めている。服薬時は必ず確認し、症状の変化があった時は主治医や看護師に相談している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に合わせて食事作り・洗濯干し・水やり等の役割を持ち、また、趣味の裁縫や折り紙・音楽鑑賞を楽しみ、生活にメリハリをつけている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「外へ出たい」との訴え時は、できるだけそのときに一緒に出掛けている。本人が好む所を家族にも聴き、一緒に外出の支援をしている。季節ごとに花見に出掛けたり、買い物・外食等も行っている。	毎日のように畑に出かけている。急な散歩や買い物に行きたい希望があれば、シーツ交換を午後にするなど業務内容を変更して対応している。協力施設より、車を借りて近隣の観光地に度々出かけている。	



グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金がないと不安な方は、家族の了解を得てお小遣い程度を管理している。外出時の支払いはできるだけ本人に行ってもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかけたい時にかけ、子機を各居室に持っていき、気兼ねなく話している。毎年、家族や親しい人に年賀状を本人の手書きで送っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはいつも花を飾り、壁面にも季節感を出している。利用者の状態に合わせて温度や音・明るさの調節を行っている。	リビングには利用者が育てた季節の花を飾っている。テーブルの上には利用者手作りのティッシュカバーを置き、数箇所にゆっくりくつるげるソファがある。調理時においては食欲をそそり、食事時には音楽が流れるなど居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士は、居室間を訪問し合い一緒にお茶を飲んだり、音楽を聴いて楽しく過ごしている。居室やソファでひとりでゆっくりできる空間や時間もある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンスやテレビ等を持ってきていただき、居心地の良い環境づくりに努めている。入居後も継続して持ち込みを促している。	居室の入り口にはのれんや手作りの表札、室内には馴染みのテレビ、ソファを家族、利用者と相談し配置している。畳に布団の居室、位牌にお供え物をした居室やカレンダーに利用者自ら予定や日々のできごとを書き込むなど、各々に過ごせるよう工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	器具の設置や必要な介助のみを行い、できるだけ自立した生活が送れるよう支援している。身体状態の変化に伴い、その都度、ケアの見直しをし必要な見守りや介助を心掛けている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果 (2ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101202		
法人名	株式会社 アイディ・インターナショナル		
事業所名	グループホーム 東町		
所在地	岐阜県大垣市 東町4丁目44-1		
自己評価作成日	平成21年10月1日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

**サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本方針改正時に地域密着サービスとしての理念「地域での役割を持ち、ともに生活したい」を既存の理念に盛り込んだ。朝のミーティング時に職員全員で三唱し、意識づけをしている。パンフレットや重要事項説明書にも記載し、利用者や関係者にも明確にしている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に4回地域向けの広報「こもれび」にてホームでの様子や活動を回覧板にてお知らせしている。自治会や学校の行事等にも積極的に参加し、ボランティアの受け入れも行っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度、隣接のグループホームが「認知症対応型サービスの取組事例普及啓発」を行っており、合同で啓発活動を計画している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者状況やサービス内容等について話し合っている。家族の都合に合わせて土・日に開くようにしている。会議結果は広報「東町」にて全家族にお知らせしている。メンバーは自治会長や市町村担当者等を含んでいる。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やケアマネ会議にて市町村担当者と交流を持ち、ホームの実情を理解し困難事例等の相談もしている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」については全ての職員が理解するように努めている。家族の希望で、やむを得ずおこなう場合は、その弊害を理解していただき、できるだけ拘束する時間を減らすように努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止関連法」について全ての職員が理解するように努めている。苦情報告には早急に対応し、入居者の思いや意向を大切に心身ともに穏やかにすごしていただけるようにケアしている。		

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については全ての職員が理解するように努めている。権利擁護が必要な入居者の家族と関係者とは情報共有しながら支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、入居者や家族が十分理解していただけるように説明している。改定等の際は、説明・文書にて同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見を言いやすい関係づくりに努め、苦情があった時は早急に対応している。玄関に意見箱を設け、来訪者や家族が意見や苦情を伝えやすい環境を整えている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の運営会議やユニット会議にて職員の意見が反映される環境を整えている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は各担当入居者の個別ケア、ホーム全体としての行事等に取り組み、利用者と一緒に楽しめる環境づくりをしている。労働条件についてもその都度相談にのり、プライベートの充実のため有休休暇の消化の勧めしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修費の中から職員が必要な研修を受けられる体制づくりをしている。年2回、隣接の施設と共同で研修発表会を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に近隣のグループホームと行き来をし交流を図っている。同業者間のケアマネ会議にて他のホームを見学したり、検討会や研修会を開いてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接にて本人の生活暦や思いを聴き、職員全員で情報共有している。また入居前には見学に来ていただき、職員や入居者と交流を図ることで安心して入居に至る配慮している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅での生活が困難な理由を含め、入居後のケアに対する要望を常に聞き、ご家族が安心していただける環境づくりに努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接時に本人や家族の思いや状況を確認し必要な支援をケアに取り入れている。また、介護保険外のサービスも必要に応じて利用している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を基本とし、入居者と職員が喜怒哀楽を共に感じながら日々の生活を送っている。お互いが必要とされる関係が築けるよう努めている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ホーム便りを送ることで、ホームでの様子がわかり安心していただいている。受診の付き添いや行事等の参加を促し、一緒に過ごしていただく時間を大切にしている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所のお友達と長電話をしたり、同僚と喫茶店でコーヒーを飲まれたり馴染みの関係を大切にしている。認知症状によりコミュニケーションをとるのが困難な時は、職員が間に入り支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や生活暦を知り、それぞれに役割を持つことでお互いに認め合っている。誕生会にて誕生者を皆で祝ったり、レクリエーションを一緒に楽しみ笑うことで仲間意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に移られても、担当職員を中心に馴染みの利用者と一緒に面会に行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当職員が中心になり、本人・家族の希望や思いを聴き、ケアの中に取り入れている。必要に応じてセンター方式を利用している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時に本人の生活歴を聴き、入居者一人ひとりを知ること努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りにて、利用者の状態を細かく把握し、一日心身共に穏やかに過ごしていただけるように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族からの意向を基本に、担当職員が中心になりユニット会議にてケアのあり方を全職員で話し合っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に健康状態や日々の様子を記録し、職員が情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の本人や家族の状況に合わせて、受診や外出の援助をしている。ホームでは対応できないサービスについては、居宅ケアマネに相談したりボランティアの支援も受けている		

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回の自治会のクリーン活動に職員と一緒に参加したり、近所や社協のボランティアによるレクリエーションと一緒に楽しんでいる。運営推進会議では自治会長や地域包括支援センター職員とも意見交換している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族が希望するかかりつけ医はあるが、月2回、ホームとして協力医療機関から回診があり健康管理に努めている。サービス担当者会議には主治医も出席していただいている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態変化に気付いたときは、早急に看護師に相談し健康管理に努めている。協力施設の看護師とも連携をとっており、ホーム看護師不在の時は、指示や処置が受けられる体制がある。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはお見舞いに行ったり、病院関係者と連携を取りながら、円滑に退院できるような支援をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化している利用者については、家族や主治医と情報を共有し、その状態に合わせた対応をしている。終末期のあり方については、家族の意向を聴きながらできる限りの対応は行っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、職員全員が周知徹底することで、迅速に対応をしている。入居者に必要な応急手当等は看護師から定期的に講習を受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、夜間想定避難訓練や初期消火訓練を行っている。避難訓練を行う際は広報にて地域の方の参加の呼びかけも行っている。また、災害時に備え、協力施設と連携を取り、食料の備蓄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット会議や申し送り時に接遇についての注意を促し、一人ひとりの尊厳を大切にケアしている。各居室には鍵があり、プライバシーを侵害しないよう個々の時間も大切にしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室担当が中心になり、利用者の思いや希望を聴き、それが達成できるようユニット会議で職員全員で話し合っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴は本人のペースに合わせて、外出等も意向を聞き、無理強いないケアを心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった衣類を家族が準備し、本人の好むものを着ていただいている。化粧をしたりアクセサリーでおしゃれを楽しんでいる利用者もいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはその方の好きな料理をメニューに取り入れている。また昼食はホームで利用者と職員で作り、同じものを食べている。毎週日曜日はおやつを手作りし楽しんでいる。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは協力施設の管理栄養士に確認してもらい、バランスのとれた食事を提供している。毎月体重測定にて、食事量やカロリーに気を配っている。水分は一日の中で定期的に時間を決め、摂取していただいている。必要に応じて記録も取っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。協力施設に歯科設備があり、必要に応じて口腔清掃や治療を行っている。		



グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄間隔を把握している。失敗が無いように早めに声かけ誘導をしている。日中は全員がトイレで排泄している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方にはイーザーファイバーをコーヒー等に入れて、できるだけ薬を使わない工夫をしている。毎日、健康体操をしたり、散歩や掃除などして体を動かしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回午前と午後に利用者の状態や希望に合わせて入浴している。一人の職員が入浴の一連の行為を行い、本人のペースでゆっくり入っていただいている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが各居室で自由に起きたり寝たりしている。リビングにはゆったりとしたソファがあり、うとうと昼寝をし、くつろぎの場になっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は必ず確認し、与薬後は直ぐに記録している。状況によって用法や用量が変わった時は、申し送りノートに記入し、職員全員が認識するよう努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族に趣味やできることを聴き、役割を持って生活していただいている。個別ケアを心がけユニットで話し合い実現に向けて取り組んでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近隣を散歩し、季節ごとに花々を見学に出掛けている。家族とは旅行や外食に自由に出掛けられる。		

グループホーム 東町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理を希望される利用者は、家族の了解を得ている。買い物や外食時はできるだけ本人が支払いをするように支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者が希望すればいつでも電話をかけられるようにしている。また、毎年、年賀状を大切な方に手書きで送っている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは季節の草花を欠かすことなく、壁面も変化をつけている。健康管理のため温・湿度には特に気を配り、清掃もこまめに行い清潔を保っている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>各居室でテレビを見たり本や雑誌を読んで、一人でゆっくり過ごす時間を大切にしている。また、リビングにはソファ、廊下には長いすがあり、気の合った仲間と楽しく過ごす空間もある。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居心地の良い空間になるように、馴染みの使い慣れた物を使っていただき、入居後も個々で思いおもいの空間作りをしている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>家族が作成した表札を掲げ、自分の部屋がわかるようにしている。ベッドL字柵やポータブルトイレの設置・着替えの準備時にも必要な衣類を記入したパネルを見ながら用意するなどの自立支援を行っている。</p>		